

# 中部地区 公民館だより

## 第180号

令和8年1月30日発行  
上山市中部地区公民館  
上山市十日町4番11号  
TEL 673-2588  
FAX 673-0379

## 手づくりのしめ飾りで 年神様をお出迎え

12月24日(水)、一般講座でしめ飾り作りが行われました。講師は中山地区の岩瀬静一さん、渡邊館長、丹地域活動推進員の3名にお願いし、2時間かけて手作りのしめ飾りを完成させました。材料の藁はしめ飾り用に稲に実が入らないうちに青刈りし、しごき、乾燥、保管までお願いし、立派な藁を準備していただきました。講師から作り方の説明があり、縦長玄関用飾りと丸形ドア飾りに分かれ、縄ないとお飾り作りを開始。縄ない実技指導の岩瀬さんの手捌きに「すごい！」と歓声があがり、“簡単にできそう”と勘違いしてしまう場面もありました。



講師の岩瀬静一さん



縄ないに四苦八苦



実際に挑戦してみると、講師の様に簡単にはいかず、紅白の掛け紙で扇と紙垂を折る細かな作業も縄を左ないにする作業もどちらも悪戦苦闘で、「ちょっと教えて」「誰か手伝ってけろ」と講師を呼ぶ声がちらほら聞こえました。左になっているつもりが、途中から右ないになってしまい「なんだか違うな」と、笑いながら何度もやり直している方もいました。「へたくそでも自分で作ると楽しいな」「市販の物より温かい感じがして良い」「豪華にできたよ」と、心のこもったしめ飾りが完成しました。



もうすぐ完成！



## 出前スポーツ教室

## カローリング



1月9日(金)、中部地区公民館、多目的ホールにて出前スポーツ教室「カローリング」が行われました。

競技を通じて運動をする機会をつくるとともに、参加者同士の交流を図ってもらいたく開催しました。

回を重ねるごとにカローリングファンが増えてきているように思います。

簡単そうに見えますが皆さん勝負となると力が入ってしまい思い通りにならないところがまた面白いようです



## 高齢者教室学習会

## 歌の教室



とん・まあれ  
鈴木友恵さん



### 歌の教室

春よ来い  
どこかで春が  
手のひらを太陽に  
北国の春  
東京ラプソディー  
いい湯だな

など10曲



1月16日(金)、多目的ホールにて高齢者教室学習会「歌の教室」を開催しました。

イスに座ったまま上半身のストレッチを行い、その後手拍子をしたり、手を前に出す運動をしながら歌を歌ったりしました。

手の動きと歌を同時に行うと脳を活性化させるといわれています。懐かしい唱歌、演歌、歌謡曲を歌い、心もリフレッシュできました。「歌はいいねー。元気になるねー」と笑顔いっぱい話してくれました。



## 一般講座 (健康講座)



山形大学医学部  
腎泌尿器外科学講座 八木真由助教



1月21日(水)、多目的ホールにて健康講座「高齢者の頻尿・夜間頻尿」と題し、山形大学医学部 八木先生から講演いただきました。

頻尿、夜間頻尿、過活動膀胱、切迫性尿失禁、腹圧性尿失禁などをわかりやすく解説していただきました。

ありがちな間違いとして「余分な水分は尿になる。頻尿になる。必要な水分を必要な時に飲むのが大事」「多量飲水は、血液粘度を必要以上に低下させない」という事でした。

次に山形の塩分摂取量など塩分制限の有用性の説明をうけました。

講演終了後、質疑応答が行われ、参加者からは気になっていることの質問があり、講演内容の関心の高さが伺えました。



## 出前スポーツ教室

## モルック

## 参加者募集

年齢や運動神経にかかわらず誰でもできるスポーツです  
寒い冬だからこそ 皆でわいわい騒いでリフレッシュしませんか？

日 時 2月17日(火)  
午前10時から午前11時まで  
場 所 中部地区公民館 多目的ホール  
講 師 かみのやまスポーツクラブ  
対 象 中部地区管内在住の方  
参 加 費 無料  
持 ち 物 室内履き、必要な方は飲み物  
申込締切 2月10日(火)



健康ポイント対象事業 20P

## 2月の予定

14日(土) ケーキ作り教室  
17日(火) 出前スポーツ教室(モルック)  
18日(水) はこべの会 サロン  
25日(水) はこべの会 閉級式  
27日(金) 消防訓練(職員のみ)

**2月の百歳体操**  
**5、12、19、26日**

## はこべの会 サロン

### 2月のサロン

熱々、トロトロの天津飯で茶話会

日 時 2月18日(水)午前10時から  
場 所 中部地区公民館 多目的ホール  
会 費 500円  
申込締切 2月12日(木)



## 藤井松平氏シリーズ6. 松平信行（5）「飯盛女」黙認、禁止、公認

飯盛女とは江戸時代の旅籠<sup>はたご</sup>で給仕をしていた女性のことで、湯女（春を売る）側面があったとされます。

この飯盛女を物語的に語るのとは簡単なことですが、江戸時代の街道伝馬<sup>てんま</sup>（継馬<sup>つぎうま</sup>）制に関わっていて容易ではありません。江戸幕府は慶長六年（1601）東海道に宿駅伝馬制を定めます。伝馬とは幕府命で公用書状と荷物を次の宿場まで運ぶために宿駅毎に人馬を配置し転送する制度をいいます。初め五街道から次第に脇街道へと整備されました。羽州街道は明暦二年（1656）金山峠からわき道が改修されて以降に奥羽、出羽諸藩の参勤交代、また湯殿山行者の行きかう道として賑わい始めます。

さていきなりですが、上山に飯盛女が公に登場するのは、元文二年（1736）城主松平信将侯への「願い状」に始まります。「一、近来旅人少なく旅籠屋困窮し、新規、施策をお願いします。宿泊連泊者一人当たり湯銭10文取りたいが、藩内の宿泊者からは取り立てません。二、抱え置く飯盛女一人につき1ヶ月三百文、12月に上納します。もし運上銭が不足する場合は湯宿が分担し納めます。飯盛女は他領から抱えます。宗旨を吟味します。三、6～7月は湯殿山行者が多くて上納できる冥加銭はありません。四、客の騒ぎは御上に迷惑をかけず旅籠屋で始末します。以上旅籠屋28名連署」が願状の内容です。

江戸時代に売春が公認されていたのは吉原などだけでしたが、公用人馬を提供する街道宿場の遊女は潜在的に黙認されていました。万治二年（1659）遊女が目立ち禁じられると、代わりに飯盛女が現れました。寛文二年（1662）幕府は質素な身なりを条件に許可、享保三年（1718）には旅籠一軒に2人の飯盛女を公認しました。

飯盛女旅籠は旅人、馬方を相手に繁昌しました。江戸周りの四宿場、千住・板橋・品川・内藤新宿の大きな宿場は遊廓街の様相で千人以上の飯盛女が「宿場女郎」と呼ばれるほどでした。上山宿では享和二年（1802）信愛侯代に飯盛女「差止め」の触が出ました。藩内の風紀に乱れが出たのでしょうか定かではありません。

上山七代信行侯の文化五年（1808）のことです。「一、飯盛女の問題で役所に迷惑をかけない、二、領内客には飯盛女を対応させない、三、揚げ代金は夜650文、昼430文、四、飯盛女一人につき付馬（伝馬）一疋」の宿場旅籠主20人連署の願いが出され、吟味のうえ再許可します。最初の願状からこの願状の間に上山温泉宿場の諸問題が垣間見られます。その信行侯代の古資料（「預かり証文」）が下十日町「丸越越後屋」に残されていました。「文政九年（1826）12月、一、飯盛女給金6両、内1両着物代、二、宗門改真言宗、三、病死・諸問題は旅籠屋で処理、四、飯盛女出身「左沢村」、仲介「半郷村喜三郎」、置屋「丸越越後屋」宛」となっている極貴重な資料です。今まで知られていなかった飯盛女の出身地、奉公代金が記されています。

次の信宝侯代の「飯盛女調査」には「揚げ代金は昼・夜650文」と旅籠屋17軒連署で回答したことが明らかになっています。

街道伝馬制のお達は、田畑耕作用に飼育していた馬を檜下、川口、上山の三宿間で取り決めて徴用していたのですが、分担で常々<sup>いさか</sup>諍いがあり、その人馬準備に充てる飯盛女抱え置き費用を役所に上納し、宿場問屋の負担に肩代わりさせる手立てとしたのです。飯盛女の公認は、温泉・城下・宿場の繁栄と負担軽減など民政の兼ね合いの中にあったということです。上山宿「敷石供養塔」については後日新たに紹介します。



下十日町丸越越後屋「飯盛女預かり証文」

※参考資料：『市史』、市史資料、「越後屋庄兵衛文書」（鈴木啓蔵家古文書）、「上山藩の公娼制度と売春禁止」（『郷土史研究会報』第4号、梅津吉造著）、『上山繁昌記』（梅津吉造著）、「山形県の歴史の調査報告書～羽州街道」（県教委）、個人蔵資料など。